



緑肥栽培による雑草管理技術と 化学肥料低減技術を開発

開発の背景・ニーズ

近年、消費者や生産者の環境保全に対する意識は高く、農業生産において環境負荷を軽減することが重要な課題となっています。そこで、緑肥を利用して、化学肥料の使用量を低減し、雑草の発生を抑制する栽培管理技術の開発に取り組みました。

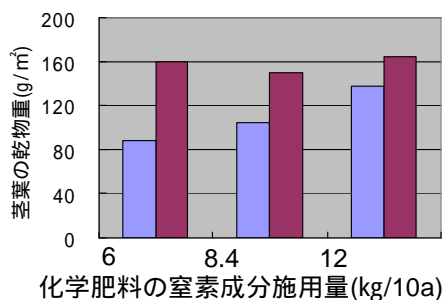
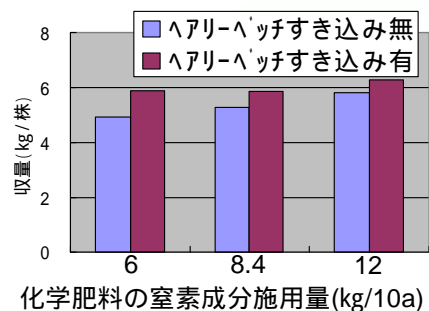
成果の内容

緑肥としてヘアリーベッチを栽培し、主作物のうね部分はすき込み、うね間はリビングマルチ（草生栽培）とすることで、緑肥のすき込みによる肥料効果により化学肥料の使用量が低減（窒素成分施用量で6kg/10aに相当）でき、さらにリビングマルチによる雑草抑制効果により、耕うんや除草剤を用いない省力的な雑草管理ができることを実証しました。



ヘアリーベッチを利用したカボチャの栽培状況

左：カボチャのうね部分はすき込み、うね間はリビングマルチ
中：つる伸長期のカボチャと開花期のヘアリーベッチ
右：自然枯死したヘアリーベッチとカボチャの果実



ヘアリーベッチすき込みの有無によるカボチャの収量と茎葉重

ヘアリーベッチすき込み・化学肥料の窒素成分施用量6kg/10aの収量と生育 > すき込み無・化学肥料の窒素成分施用量12kg/10aの収量と生育

6kg程度の窒素成分施用量の低減が可能

主作物のうね部分はすき込みすき込んだヘアリーベッチの乾物重
290 ~ 370kg / 10a
全窒素含量
10 ~ 15kg / 10a

肥料効果
化学肥料の低減

愛知県農業への貢献

緑肥栽培を普及することにより、化学肥料や除草剤の使用量が低減でき、環境負荷の軽減が可能となります。